

事務事業名	茅野環境館管理運営事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	11
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係	連絡先	380	

政策番号	03	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画①	01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進									
		基本計画②	01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進									
		実行計画	02	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画	0201	発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再利用（Recycle）の推進									
予 算 事 業 名	茅野環境館管理運営費					会計コード	01	款	04	項	02	目	03	事業	04
事務事業の概要	平成12年に開設した「美サイクルプラザ」の運営支援。使わなくなったもののリユースを推進するための事業（市民から無償提供された不用品（リユース品）の引受・販売及び情報提供、古くなった和服をベストやブラウスなどとして再利用する講座や作品の製作等）の支援。その他、主に市役所閉庁日の資料等の配布や生活環境に関する相談もを行っている。開設は火曜日～土曜日の週5日。運営業務はNPO「エコタウンちの」に委託している。														
現状と背景	平成9年の「美サイクル茅野」からの提言を受けて平成12年に設置。平成16年4月からは週5日の常設で運営しており、その業務をNPO「エコタウンちの」に委託している。（平成17年4月からは「茅野環境館」に移転した。）														
目的	受益者	市民													
	対象	同上													
	意 図	循環型社会実現のための活動拠点として市民に周知し、不用品のリユースに関する意識高揚を図る。													
手段・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必要物品、情報の提供 ・「広報ちの」への掲載、HPへの掲載、エコフェスタでの啓発活動 														
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値					
		1	広報ちの等での掲載回数	広報ちの等への掲載回数	回	定期12+1					13				
		2	環境館開館日数	開館日数	日	年間の環境館開館日数					250				
	3														
	変更履歴														
	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値				
1	茅野環境館来場者		茅野環境館来場者	人	来場者数					11,000					
2	茅野環境館情報登録件数		茅野環境館情報登録件数	件	情報登録件数					500					
変更履歴															

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	3,074,653	2,856,220	2,880,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	その他特定財源	円							
	一 般 財 源	円	3,074,653	2,856,220	2,880,000				
	活 動 指 標	広報ちの等への掲載回数	目標	回	13	13	13		
			実績		13	13			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
		開館日数	目標	日	250	250	250		
			実績		250	249			
		達成率	%	100.00	99.60	-	-	-	
	-	目標	-						
		実績							
達成率	%	-	-	-	-	-			
成 果 指 標	茅野環境館来場者	目標	人	11,000	11,000	11,000			
		実績		9,625	9,195				
		達成率	%	87.50	83.59	-	-	-	
	茅野環境館情報登録件数	目標	件	500	500	500			
		実績		193	232				
		達成率	%	38.60	46.40	-	-	-	
備 考									

事務事業名	茅野環境館管理運営事業	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	11
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係	連絡先	380	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （変動） （要因） （分析）		来場者数は、前年度比較で700名程の減少となり、情報登録は前年とほぼ同数であった。 リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが、要因として考えられる。	来場者数は、前年度比較で400名程の減少となり、情報登録は40件程の増であった。		
価値（総合評価）	成果	年間約1万人の利用がされており、商品リユース（販売）は約25,000件の実績がある。リユース・リサイクルの拠点施設として事業を継続して実施することが必要である。	年間約1万人の利用がされており、商品リユース（販売）は約29,000件の実績があり前年比4,000件程の増であった。リユース・リサイクルの拠点施設として事業を継続して実施することが必要である。			
	課題	広報ちのでゆずりあおうコーナーを設けているが、個人情報や取り取りを敬遠する傾向があることやリサイクルショップができていない影響もあり、登録件数の増加は見込めない状況である。	情報提供件数、商品リユース件数ともに増加している。 来館者数が減少しており、新規利用者を増やすためのPRが必要である。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACIT）	改善の方向性	施設のPRを強化することにより、施設の認知度を高めることが必要である。環境館の利用内容の周知を広報・ホームページ・マスコミを通じたPRを実施することが有効である。	施設のPRを強化することにより、施設の認知度を高めることが必要である。環境館の利用内容の周知を広報・ホームページ・マスコミを通じたPRを実施することが有効である。			
	策び容					
作成担当者	金井和人	金井和人				
最終評価責任者	保科慎一	伊東一英				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	資源物収集処理事業	事業期間	1998 ~	年度	係内番号	05
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係	連絡先	380	

政策 番号	03	基本計画①	01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進	実行計画の 施策の 柱におけ る指標と の関連度	高																														
		基本計画②	01	環境基本計画	0401	循環型まちづくりの推進																																
		実行計画	02	一般廃棄物（ごみ）処理基本計画	0201	発生抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再利用（Recycle）の推進																																
		項目		計画CD	計画名称	施策の 柱CD			施策の柱の名称																													
予 算 事 業 名		資源物収集処理事業費			会計コード	01	款	04	項	02	目	02	事業	06																								
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		一般家庭から排出される資源化できるごみを分別回収し、圧縮梱包等の中間処理を行った後、リサイクル事業者に引き渡す。																																				
現状と背景 (どうして)		大量消費、大量廃棄の生活を改め、地球環境にやさしい循環型社会の形成を目指すことにより、限られた地球資源を大切に利用するため、従来は焼却埋立処分されていたごみも資源化が必要である。																																				
目 的 的	受益者 (誰のために)	市民																																				
	対象 (直接働きかける)	職員及び収集処理業者																																				
	意 図 (どんな状態にしたいか)	資源ごみのリサイクル化。																																				
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	ステーションに分別されて排出された資源ごみを市の委託業者が収集し、中間処理施設に運搬する。中間処理施設において、処理業務の委託業者が最終選別、圧縮梱包処理を行い、それぞれのリサイクルルートにより再資源化を図る。																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動指標</th> <th>行政が活動することで作り出すもの</th> <th>指 標 名 称</th> <th>単 位</th> <th>算出方法・計算式・目標値設定の考え方など</th> <th>最終目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>資源ごみの収集運搬</td> <td>収集率</td> <td>%</td> <td>収集量÷排出量×100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>資源ごみの中間処理</td> <td>中間処理率</td> <td>%</td> <td>中間処理量÷搬入量×100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td></td> <td>資源物の分別講習会</td> <td>地区別等分別講習会</td> <td>回/年</td> <td>年間の講習会の開催回数</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>															活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値		資源ごみの収集運搬	収集率	%	収集量÷排出量×100	100		資源ごみの中間処理	中間処理率	%	中間処理量÷搬入量×100	100		資源物の分別講習会	地区別等分別講習会	回/年	年間の講習会の開催回数
活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値																																	
	資源ごみの収集運搬	収集率	%	収集量÷排出量×100	100																																	
	資源ごみの中間処理	中間処理率	%	中間処理量÷搬入量×100	100																																	
	資源物の分別講習会	地区別等分別講習会	回/年	年間の講習会の開催回数	10																																	
成 果 指 標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値																																
	1	収集された資源ごみの再生	リサイクル事業者への引き渡し率	%	再生量÷ごみ搬入量×100	100																																
	2																																					
変更履歴																																						

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	117,765,605	112,168,825	116,301,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	13,640,942	12,409,954	10,039,000			
	一般財源	円	104,124,663	99,758,871	106,262,000			
	活動指標	収集率	目標	%	100	100	100	
			実績	%	100	100		
			達成率	%	100.00	100.00	—	—
		中間処理率	目標	%	100	100	100	
			実績	%	100	100		
			達成率	%	100.00	100.00	—	—
	地区別等分別講習会	目標	回/年	10	10	10		
実績		回/年	5	1				
達成率		%	50.00	10.00	—	—		
成果指標	リサイクル事業者への引き渡し率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	—	—	
	—	目標	—					
	実績	—						
	達成率	%	—	—	—	—		
備考								

事務事業名	資源物収集処理事業	事業期間	1998 ~	年度	係内番号	05
担当部署	市民環境部	美サイクルセンター	業務係	連絡先	380	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果要因分析）		市からリサイクル事業者へ引き渡した資源物が、全品目で引取り基準を満たしていたため、全量引き渡すことができた。	市からリサイクル事業者へ引き渡した資源物が、全品目で引取り基準を満たしていたため、全量引き渡すことができた。		
価値	成果	市内全リサイクルステーションにおいて、収集漏れがなく適正に行うことができた。	市内全リサイクルステーションにおいて、収集漏れがなく適正に行うことができた。			
	総合評価	資源物の分別の精度を高めるため、可燃ごみに含まれる資源ごみの分別について、地区の講習会等により啓発する必要がある。	資源物の分別の精度を高めるため、可燃ごみに含まれる資源ごみの分別について、地区の講習会等により啓発する必要がある。			
課題	課題					
	課題					
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	収集方法は現状を維持し、新たなリサイクルセンター稼働に合わせた、地区等分別講習会を開催し、更なる資源ごみの分別について啓発していく。	2021年度の諏訪南リサイクルセンターの稼働に合わせて、収集業務委託、資源ごみの分別を見直し、地区等への分別講習を開催しながら、更なる資源ごみの分別について啓発していく。			
	改善の方向性					
策	策					
	策					
作成担当者	守屋正弘	武居直樹				
最終評価責任者	保科慎一	伊東一英				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				